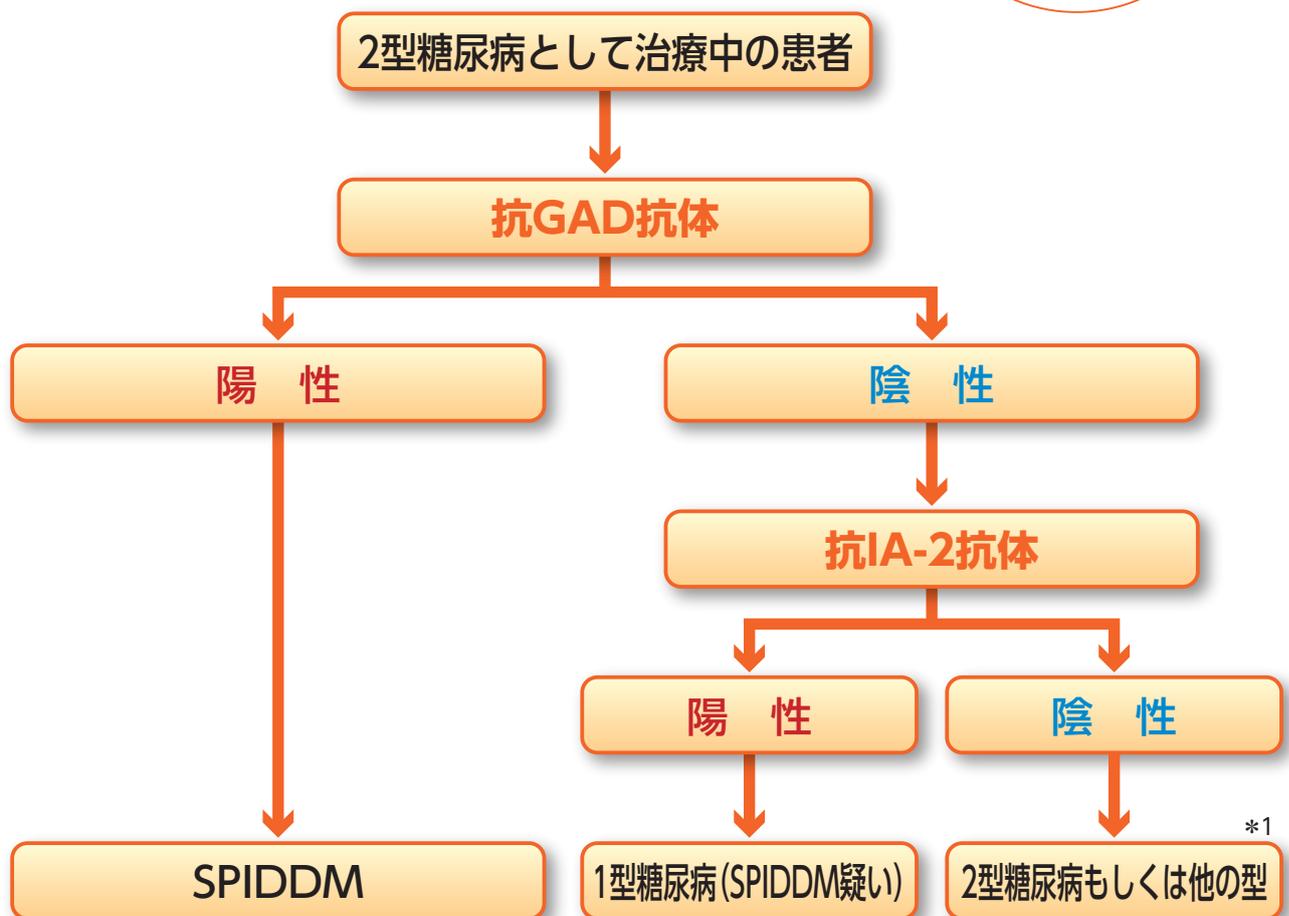


抗GAD抗体、 抗IA-2抗体の有用性

糖尿病と診断されたら、病型を判別し、適切な治療をしなければなりません。
このために、**自己抗体**を測定する事が重要です。

監修
新古賀病院
糖尿病センター
センター長
川崎 英二



*1 抗インスリン抗体や抗ZnT8抗体の測定が病型の判別に有用なことがあります。¹⁾

Q なぜ、病型を判別する事が重要なのでしょうか？

A 糖尿病は1型糖尿病と2型糖尿病に大別されます。1型糖尿病には発症形式によりさらに3分類されます。急性発症1型糖尿病、劇症1型糖尿病、緩徐進行1型糖尿病 (SPIDDM) です。

急性発症1型糖尿病と劇症1型糖尿病では、発症時に著明な高血糖、糖尿病ケトosisや糖尿病ケトアシドーシスがみられるため、2型糖尿病との鑑別は比較的容易ですが、SPIDDMは一見すると2型糖尿病と区別が付きません。

SPIDDM患者に対して、SU薬を使用すると、インスリン治療と比べてインスリン依存状態への進行リスクが高まる事が知られています。

インスリン依存状態への進行を抑えるためにも病型の判別が重要となります。

1型糖尿病患者さんを見逃していませんか？

年齢制限が撤廃されて、30歳以上でも抗GAD抗体が陰性であれば、測定できるようになりました。

トピックス

2018年4月より抗IA-2抗体の保険が変更されました。

変更前

抗IA-2抗体は、すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）の結果、陰性が確認された30歳未満の患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。

なお、当該検査を算定するに当たっては、その理由並びに医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

変更後

抗IA-2抗体は、すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）の結果、陰性が確認された**30歳未満**の患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。

なお、当該検査を算定するに当たっては、**抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）の結果、陰性が確認された年月日その理由並びに医学的根拠**を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

年齢制限が
撤廃

理由や根拠の
記載が不要

抗GAD抗体の
結果と
測定日を記載

